

コンサル×デザインによる 「次世代型」市町村勢要覧

クリエイション事業部 板岡敬一郎

1. 時代とともに変わる、要覧の在り方

「平成の大合併」から20年が経過し、これまでまちの紹介冊子として活用されてきた市町村勢要覧の在り方や使い方は年々変わっています。

本来、市町村勢要覧は、行政上の基礎情報を網羅した統計資料として、主に行政職員や議員が視察先等で関係者へ向け、まちの紹介資料として使用していましたが、1990年ごろから写真と文章の折衷型が人気を博し、2010年ごろからはよりアピール性を高めた「プロモーション冊子」へと、その使用用途とターゲットを変えてきました。

そして現在、あるまちでは移住・定住に特化したり、またあるまちでは観光・特産PRで外貨獲得を狙ったりと、まちの魅力・特性をアピールし効果を見出せる冊子、これが現代の要覧の在り方となっています。

2. 「行政も一企業」の視点による 新しい要覧のカタチ

これまで要覧は、まちの魅力を広くPRすることを目的に作成されていましたが、岡山県瀬戸内市は「行政も一企業」という視点から、企業・金融機関・地域住民・各種団体など、あらゆるステークホルダーに向け、市の財務状況や将来の成長戦略などのポテンシャルを掲載するIR（Investor Relations：統合報告書）へと昇華させ、全国初の「次世代型」要覧として発行いたしました。

作成にあたり、財務資本、製造資本、知的資本、人的資本、社会・関係資本、自然資本の6つの資源を抽出するため、関係する課・係及び団体を集め、当社コンサルタントも交えた

ワールドカフェ形式によるワークショップを実施。まちの魅力・課題を言語化するとともに、本事業をきっかけにさらなるまちの付加価値向上に携わる職員・メンバーの意識醸成にも繋がりました。

また、企画段階からIRのガイドラインとなるIIRCフレームワークに準じ、IR制作実績が豊富な教授等とも協力し、職員と掲載内容等の精査・意見の取りまとめ方法等を協議しながら、円滑な作業を実現しました。



3. コンサル×デザインによる、 魅力のさらなる見える化

ページ構成やデザインにおいては、要覧や総合計画など各種刊行物を数多く手がける当社が培った経験とノウハウをフルに活用し、関係者のみが理解できるよう編集されている通常のIRではなく、地域住民をはじめ、あらゆるステークホルダーにも理解いただけるよう、難解な行政・ビジネス用語の排除、大胆な写真の使い方で「魅せるページ」、ゆとりあるレイアウトで「読ませるページ」といったメリハリによる、見応えと見やすさの両立、インフォグラフィックによる

数値情報の見える化など、細部にそのノウハウを駆使しています。



行政版 IR は各資本の基準や具体的な数値情報など、行政職員でしか収集・算出できず、一人で情報収集すると負担になる部分が多くあります。当社では総合計画をはじめ、各種福祉計画等のファシリテート経験豊富なスタッフによるワークショップでの意見抽出・とりまとめが可能です。さらに、行政の刊行物に特化したデザイナーによる見せ方の工夫なども豊富です。当社が有する組織力によって魅力のさらなる見える化をお手伝いいたします。

以上